



南三陸杉

価値ある森林を、

次の世代へと、まっすぐに



南三陸森林管理協議会

Features 01 伊達政宗公も愛した良材

1601年に仙台藩祖：伊達政宗公が仙台城を築き広瀬川をはさむ城下町に大橋を架ける際に、南三陸に杉の大樹良材を求めたといわれます。それ以降、仙台藩の良質な杉の産地として、植林が奨励されてきました。水を好む杉にとって、年間降水量が少く、降雪もない南三陸町は過酷な環境です。しかし、そのような条件下でも、良材に育てる技術を確立し、次の世代へ受け継いできました。現在では、国有林・公有林・私有林を合わせて、12,524ヘクタールの、杉を中心とする森林が存在しています。

Features 02 強くて美しい「美人杉」

南三陸の杉の特徴として、山が岩盤質で栄養が少ない分、あまり太らず高く伸び、ゆっくり成長するために目が詰まり強度も高くなることが挙げられます。町の林業研究グループが行った検査では、全国平均を上回る強度を確認されました。さらに、薄いピンク色の赤身が特徴で、美しい色みと強さを兼ね備えていることから、「美人杉」と呼ばれています。こうした特徴を活かして、住宅の床・天井・柱などの建材のほか、家具やインテリアの素材として幅広い目的での活用が期待されます。

Features 03 幅広い活用の可能性

南三陸杉は、行政施設や宿泊施設など、町内のさまざまな施設で建材として活用されています。そのほかにも、内装材や小物、什器等の商品化も行っています。特に教育旅行や体験学習では、南三陸町の事例を通して SDGs について楽しく学ぶため、南三陸杉を使ったワークショップが人気です。加工から販売、体験プログラムの提供まで行える企業や団体が町内にあることで、南三陸杉の可能性を広げ、ブランド化を後押ししています。



一般社団法人南三陸 YES 工房



丸平木材株式会社

まっすぐに
ピンク色



南三陸杉

南三陸杉

南三陸杉は樹高が高く、あまり太くならず、3〜4mの木材の上下で径級にあまり差がない完満材。材は美しい淡いピンク色の芯材が多く、年輪が目詰まりし、比較的強度がある良材です。

事務局

株式会社佐久 TEL 0226-46-2037 南三陸森林組合 TEL 0226-46-3119

南三陸森林管理協議会 HP <https://mfsa.jp/>



南三陸森林管理協議会



東日本大震災後、「自然と共生するまちづくり」を目指した宮城県南三陸町。分水嶺で囲まれたこの町では、町内に降った雨がすべて川を通じて志津川湾に注ぎます。地域の林業関係者は、町全体の自然と密接に関わる山側の責任として、環境と社会に配慮した適切な森林管理をしようと考え、南三陸森林管理協議会を立ち上げました。2015年には国際認証であるFSC®認証を取得。その後も、常に基準に則った森林経営と管理を徹底し、持続可能な森林経営・管理が実現することを目指しています。

代表挨拶

町の未来を見据え、持続可能な森林管理を目指していく

東日本大震災は大きな試練をもたらしましたが、未来に向けて町がどうあるべきかを真剣に考えるきっかけになりました。南三陸町は境界が分水嶺になっていることから下流の川や海に対して山側の責務として「自然環境に配慮し持続可能で適切な森林管理をするべきである」と結論づけ「FSC®国際森林認証」の取得を決めました。森林経営計画を立てている町有林と森林所有者が「南三陸森林管理協議会」を設立し、2015年10月「共同認証」を取得しました。現在は町内森林の2割に当たる2,481haが認証森林となり、町内の製材所、建設会社、工房等がFSC加工・流通認証（CoC認証）を取得し、建物から家具・雑貨までの供給ネットワークができました。自然環境を保全しつつ、南三陸杉の山林を適切に管理し、地域産業の一翼を担っていききたいと思います。

南三陸森林管理協議会
会長 佐藤 久一郎



山主と流通・活用を担う
事業者が一体となり、
山林管理にとりくんでいく



FM部会より

共に学び、共に成長することでより良い森林管理を実現していく

最近、温暖化による急激な気候変動での災害が目立っています。森林の二酸化炭素吸収の重要性が叫ばれる中、森林組合も従来の生産林（林業）としての山づくりから森林生態系を理解しながら環境に配慮した森林整備をしなければならない時代になってきています。経済的（林業）木材生産としての森林、環境林としての森林、それぞれの目標林型を定めて森林整備をすべきだと考えております。南三陸森林管理協議会では、町内の事業者と意見交換を行いながら、持続可能な森林利用の方策を模索しています。このような体制は、全国の森林組合の中でも特筆すべきものだと感じています。私自身も、森林組合で培った知識と森林整備の経験を活かし、この協議会に積極的に貢献していきたいと考えています。共に学び、共に成長することで、より良い森林管理の実現に向けて努力していきます。

南三陸森林組合代表理事組合長
高橋 長晴



CoC部会より

木の包むやすらぎの暮らしを届ける

南三陸の林業は悠久の歴史の中で、良質な木々の命を繋いできました。その木々は、山々を健やかに保ち、そして里や海を守り育みます。FSC認証は、その連環を持続的に保つ客観的評価となる国際基準です。CoC認証を取得した我々は、その木々の加工流通販売を担う川中の役割として、FSC認証された木々を責任もってお客様に届けることで、「木の包むやすらぎの暮らし」をご提供し、また、地域の持続的連環をこれからも守り育てていきます。

ライセンス：FSC®C127324
丸平木材株式会社
小野寺 邦夫



モノづくりや体験を通して 林業にかかわる人の思いを伝えたい

私たちは南三陸杉を活用したモノづくりや体験プログラムを行っています。南三陸杉の優しい手ざわりや香りを感じてもらいながら、林業にかかわる人の思いも一緒に知っていただきたいと考えています。

一般消費者の方に楽しく「自分ごと化」していただくきっかけをつくること、ひろい意味での山の課題解決に繋がっていくと信じています。

ライセンス：FSC®C156340
一般社団法人 南三陸YES工房
大森 丈広



構成メンバー

- FM部会 南三陸町／南三陸森林組合／大長林業／株式会社佐久／入谷生産森林組合／慶應義塾大学
- CoC部会 丸平木材株式会社／一般社団法人南三陸YES工房／志津川建設株式会社／山庄建設株式会社

南三陸森林管理協議会は、宮城県で初めてFSC®認証を取得した団体です

2015年に南三陸森林管理協議会のFM部会は、宮城県内で初めてFSC認証を取得しました。FSC認証とは、持続可能な森林活用・保全を目的として誕生した、「適切な森林管理」を認証する国際的な制度です。FSCの森林管理の審査基準である「10の原則と70の基準」は、「森を守ること」だけにとどまらず、労働者や先住民族の権利、地域社会との関係や文化など、広い視野に基づいて、森林の在り方を考えたものになっています。認証を受けた森林からの生産品による製品にはFSCロゴマークがつけられます。



責任のある森林管理

持続可能な林業を続けていくためには、責任ある森林管理を続けていくことが大切です。私たちはFSC® 認証の審査基準である10の原則と70の基準に則って、環境や生態系を守りながら、責任ある森林管理を実践していきます。



ぬくもりあふれる木材活用

南三陸森林管理協議会のメンバーである製材所や建設会社は加工流通の認証、CoC 認証を取得しました。これにより、建物や家具の製造など、幅広い用途で南三陸のFSC 認証材が使用できるようになりました。ぬくもりあふれる木材活用を通じて、持続可能な未来を築いています。

活用 1 南三陸町役場



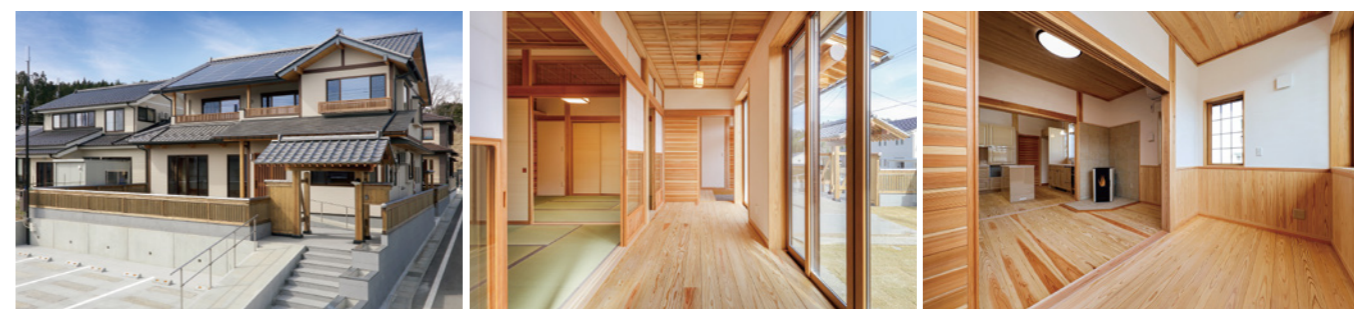
活用 2 南三陸町図書館（南三陸町生涯学習センター）



活用 3 IRIYA BASE（コワーキングスペース）



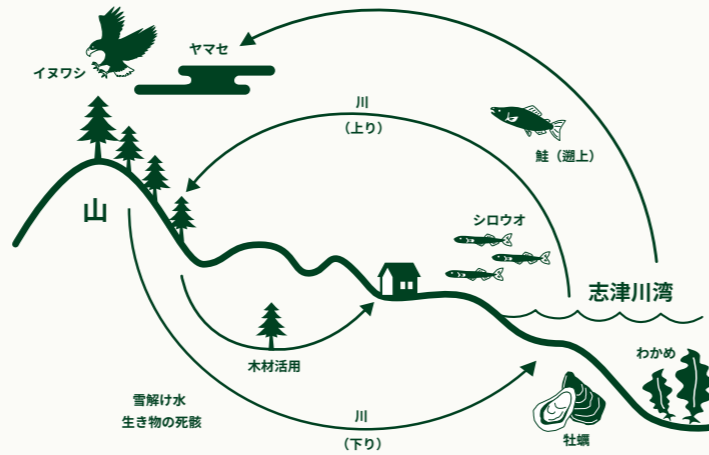
活用 4 新築戸建住宅



南三陸森林管理協議会の貢献

南三陸町の復興への取り組み

2011年に発生した東日本大震災で南三陸町は大きな被害を受けました。町の総合計画として「森里海ひといのちめぐるまち 南三陸」をビジョンに掲げ、新たなまちづくりを進めていくことになりました。分水嶺に囲まれた南三陸町は、森林から湧き出した水が川を通り、志津川湾に続いています。その流れの中に人々が生きる里があります。南三陸の人々の営みは、森・里・海のつながりそのものと考えたため、「いのちめぐるまち」を目指したのです。



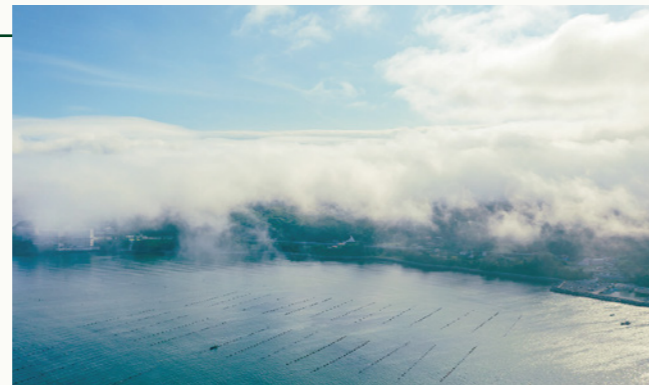
FSC認証取得は、持続可能なまちづくりを進める大きな一歩

宮城県本吉郡南三陸町
町長 佐藤 仁 様

震災後、「森・里・海に囲まれた豊かな自然こそが、未来に向けての南三陸町の財産」であると強く思い、「自然と共生するまちづくり」を目標のひとつとして掲げた「南三陸町震災復興計画」を策定しました。平成27年に南三陸森林管理協議会がFSC認証を取得したことは、自然と共生し持続可能なまちづくりを目指す本町にとって、大きな取組であったと感じています。



町の面積のおよそ8割を森林が占め、沿岸部はリアス海岸の南三陸町。山、里、川、海が一体となった豊かな自然環境を有しています。



山の豊かさが持続可能な漁業に繋がる

宮城県漁協 戸倉出張所 カキ生産部会
会長 後藤 清広 様

南三陸町は山の恵みがすべて海に注ぐ地形をしています。「森は海の恋人」という言葉があるように、美味しい海産物を生産していくためには、山側の豊かさが欠かせません。震災後、私たち漁師は持続可能な漁業を目指しました。FSC認証の取得は、私たちが海の国際認証であるASC認証を取得する上で大きな励みになりました。



持続可能な林業が山の生態系を再生する

南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会
会長 鈴木 卓也 様

日本の山の生態系の独自性は、縄文の昔から人が山の環境を活用することで育まれてきました。その関係性の希薄化が、イヌワシをはじめとする山の生物多様性の危機を招いています。持続可能な山林業の促進による、人と山との豊かな関係性の再構築を期待します。



WWFジャパン

ネイチャー・ポジティブ推進の先駆者として期待

WWFジャパン 天野 陽介 様

南三陸森林管理協議会は、FSC認証を取得し、適切な森林管理を実践しています。WWFは、自然保護と経済の両立を目指して様々な取り組みを行っていますが、FSC認証の普及・推進もそうした取り組みの一つです。2023年には、南三陸森林管理協議会とともにTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）のパイロットテストを実施し、TNFDという企業と自然の関係を開示する国際的な枠組みに対して日本からもインプットを行うことができたことを大変光栄に思います。かつては2割を切っていた日本の木材自給率も、令和2年には4割を超えました。日本の森林が持続可能な形で管理されていくことはますます重要になっています。南三陸森林管理協議会には、今後も現場にて、持続可能な形で森林を管理するための取組をさらに深化し、現場の知見を世に発信し、ネイチャー・ポジティブを推進していく先駆者としての役割に大いに期待しています！

TNFDが推奨する開示 企業と自然の依存と影響
南三陸のFSC®認証林におけるLEAP検証を事例に
<https://www.wwf.or.jp/activities/data/20230830forest.pdf>



©1986 Panda Symbol WWF



日本森林管理協議会 (FSCジャパン)

FSC認証に新たな価値を見いだす、前向きな試み

日本森林管理協議会 (FSC ジャパン) 三柴 ちさと 様

南三陸の活動は、その始まりから目を引くものでした。東日本大震災による甚大な被害からの復興、森や海という自然、そしてそこに息づく人々の生活を包括した持続可能な未来を創るという南三陸の総合的なビジョンにおいて、環境保護と地域経済の融合の証として森林や海洋の国際認証取得が行われたのです。

しかし、認証は取得しただけでは意味がありません。毎年の監査という負担は軽くなく、認証が有効活用できず、その後やめてしまうところもあります。そんな中で、南三陸は地域の森林・木材関係者や行政のみならず、他産業（漁業）やWWFジャパン等のNGOやIT企業等、多様なプレイヤーを巻き込み、協力体制を築くことで取組の幅を広げてきました。その多彩なネットワークにより、TNFDとの親和性の検証や、木材流通におけるブロックチェーンの開発など、認証に新たな価値を見出す画期的な試みを次々と行っています。認証を単なる外部からの「お墨付き」で終わらせるのではなく、その新たな価値を創り、可能性を切り開こうとするその姿勢に、大いに期待を寄せています。



FSCジャパンウェブサイト掲載記事 南三陸森林管理協議会について
<https://jp.fsc.org/jp-ja/Minamisanriku>

